

い	に	な	く	験	拭	い	に	を	も		国	ろ	し	う		か			も				
っ	暮	い	は	と	く	た	手	近	う		な	う	さ	。		っ			し				
た	らせ	よう	、	、	よ	ら	を	づ	二		の	か	を	そ		た			も				
学	せる	にし	誰	それ	う	、	入	げ	度		だ	身	も	れ		ら			し				
習	る	して	かの	ぞれ	に	よう	れ	た	と		だ	も	つ	は		、			、				
能	よ	きた	の経	れの	す	に	な	ら	そ		。	分	て	も		日			広				
力	う	と思	験を	対	る	。な	い	、	ん		。	自	知	し		本			島				
が	な	う	聞	処	。	ど、	ひ	。	な		。	分	っ	か		は			や				
備	な	思	い	法	だ	誰	い	。	こ		。	て	た	し		ど			長				
わ	っ	う	、	が	か	し	。	。	を		。	い	ら	た		う			崎				
っ	て	。	自	あ	ら	ら	。	。	し		。	る	日	。		っ			に				
て	い	。	分	る	、	、	。	。	な		。	か	本	。		。			原				
い	く	。	も	と	思	。	。	。	。		。	ら	人	。				爆					
る	。	。	そ	思	。	。	。	。	。		。	。	が	。				が					
か	。	。	う	。	。	。	。	。	。		。	。	。	。				落					
ら	。	。	。	。	。	。	。	。	。		。	。	。	。				と					
で	。	。	。	。	。	。	。	。	。		。	。	。	。				さ					
あ	。	。	。	。	。	。	。	。	。		。	。	。	。				れ					
る	。	。	。	。	。	。	。	。	。		。	。	。	。				て					
。	。	。	。	。	。	。	。	。	。		。	。	。	。				い					
	。	。	。	。	。	。	。	。	。		。	。	。	。				な					

では、誰しもが戦争の痛みを体験しなければ、
ばならないのだろうか。そうしなければ、世
界に平和が訪れないのだろうか。私は、そう
は思わない。日本は原爆を落とされた後、そ
の痛みを他の戦争体験も含め、ずっと語り継
ぐことができたから、今の平和があるのだと
考えるからである。先程言ったように、人間
には、自分で経験しなくても、誰かの経験か
ら自分も学ぶことができる力がある。つまり
誰しもが戦争の痛みを体験しなくとも、平和
は作り出すことができるということである。
では、結局どうしたら平和は持続させるこ
とができるのだろうか。繰り返しにはなるが
私は、戦争の痛みを語り継いでいくことが鍵
になると思う。日本はそうやって戦争をリア
ルに体験してきた人たちから、戦争の恐ろし
さを学んできた。戦争で犠牲になってしまっ
た人はもう戻らない。ならばせめて、私たち
がもう二度と戦争を起こさないことが、彼ら
への報いなのかもれない。大切なのは恨み

あいではなく、過ちを繰り返さないことだ。そして、私たちはただ語り継いでいくだけ。でなく、そのときの彼らの気持ちを理解すること。これも必要だ。他者の気持ちを理解すること、より戦争を起こしてはいけないという意識が高まるからである。こういった継承は日本国内だけでなく、世界へ発信し、誰しもが相手の立場になって他者の気持ちを理解すること、世界は平和になっていくのではないかと私は考える。

しかし、人へ人へと語り継いでいく度に、その継承はもとの形とは違うものになったり薄まっていったりしてしまう。今現在、第二次世界大戦を経験してきた世代の人々は世界的にも段々と減ってきている。日本では、約二十才で出兵したと仮定すると、今はもう九十才以上ということになる。近いうちに、戦争を体験してきた人が全くいない社会になるだろう。それと同時に、最近、物騒なニュースも増えてきているように感じる。例を挙げ

